

新しいマラソン大会の開催に向けた取組について

1 背景等

1962年から開催され、長らく県民に親しまれてきた「びわ湖毎日マラソン」は、2021年の第76回大会をもって滋賀県での開催が終了した。

一方、2010年から開催している「びわ湖レイクサイドマラソン」は、15kmコースのハーフマラソン化など内容を拡充し、第11回大会では、開始当初の2.4倍を超える3,111人の参加申込みがあった。

こうした状況を踏まえ、マラソンを通じて本県におけるスポーツを一層推進していくため、新しいマラソン大会の開催に向けて検討を行う。

2 びわ湖毎日マラソン、びわ湖レイクサイドマラソンの概要

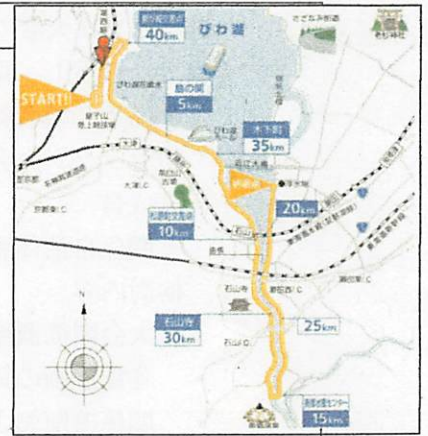
○びわ湖毎日マラソン

大会の概要

- ・ 1946年に大阪で始まり、1962年から2021年まで本県で開催した歴史ある大会。
- ・ オリンピックのマラソン競技の選考レースとなるなど、国内外のエリートランナーが集まる大会。(参加資格フルマラソン2時間30分以内等)
- ・ NHKによる全国放送は、コース周辺の美しい琵琶湖の風景といった本県の魅力を全国に発信。

大会の効果等

一流のランナーによる数多くの名勝負は、沿道の観客に身近にスポーツの感動を与え、周辺の美しい風景は、湖国滋賀の魅力を全国に発信してきた。



○びわ湖レイクサイドマラソン

大会の概要

- ・ 2010年に第1回大会を開催、2022年に第13回大会を開催予定。(第11回大会は開催中止、第12回大会はオンライン開催。)
- ・ ハーフ(以前は15km)、12kmの2部門を開催、上級者から初級者まで幅広いレベルの市民ランナーが参加。主に湖岸道路の管理用通路を使用したコース設定。
- ・ 開催内容を拡充しており、参加者数は、第11回で3,111人と開始当初の2.4倍に増加している。

大会の効果等

参加者数は増加しており、更なる拡充が期待される場所であるが、現行の実施方法では、これ以上の参加者の受入れには限界がある。



3 検討の方向性

「びわ湖毎日マラソン」におけるスポーツを「見る」喜びを、スポーツを「する」感動を味わい、滋賀の魅力を「体感する」ことで、より一層のスポーツの推進や滋賀の魅力発信を行えるよう「びわ湖レイクサイドマラソン」を充実・発展させる。

新しいマラソン大会の実現に向けて

- ・ 県民に愛され、誇りに感じられる県を代表するマラソン大会の実現
- ・ 県内外の幅広い世代の参加者によるスポーツ体験
- ・ 美しい滋賀の風景を多くの方に体験いただくことによる本県の魅力発信
- ・ スポーツをする感動を通じた心身の健康増進による「健康しが」の推進

4 今後に向けた検討

(1) 令和3年度

新マラソン大会の開催に向けて、関係者および学識経験者等で構成する大会準備委員会を設置し、開催に係る検討を行い、検討後は大会実行委員会に移行する。

ア 準備委員会の名称

新マラソン大会準備委員会

イ 構成員

- ・ 関係自治体職員、競技団体、学識経験者等

ウ 検討内容

- ・ 大会開催概要の策定に関すること
- ・ 各種計画の策定に関すること
- ・ 関係機関および団体との連絡調整に関すること
- ・ 収支計画に関すること
- ・ その他大会開催に関すること

エ 設置予定日

令和3年5月下旬

(2) 令和4年度

大会実行委員会による開催準備、令和4年度後半での大会開催。

5 その他

令和3年度の第13回びわ湖レイクサイドマラソンは、新マラソン大会のプレ大会として開催を予定。